

青森県

- ①モニュメント
- ②ベンチ
- ③PRパネル
- ④その他、利用希望のあった2町に木材を配布するほか、国民スポーツ大会においても活用

【概要・アピールポイント】

- ・東京2020のレガシーとして、選手村ビレッジプラザで使用された様子をイメージしてもらえるよう、出来る限り原型を崩さずに見て触れられるものにする事をコンセプトに、県内の木材・木工に係る有識者等で組織した検討委員会でデザインを決定した。
- ・複数の用途で木材を利用し、返却された材すべてを有効活用することとした。

■ 資材提供のきっかけ

「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」の事業趣旨に賛同したほか、メディアへの露出を通じた県産材のブランド力向上や県民の県産材利用促進に関する理解の醸成を期待し、資材提供を決定

■ 提供した木材の概要

- ・スギ、ヒバ、アカマツ

■ 用途

- ①モニュメント (1基)
- ②ベンチ (11基)
- ③PRパネル (14枚)
- ④その他、利用希望のあった2町に木材を配布するほか、国民スポーツ大会においても活用

■ 用途決定までのプロセス

東京2020のレガシーとして、選手村ビレッジプラザで使用された様子をイメージしてもらえるよう、出来る限り原型を崩さずに見て触れられるもので、返却された材すべてを有効活用することをコンセプトに、県内の木材・木工に係る有識者等で組織した検討委員会で用途及びデザインを決定した。

■ 完成/使用開始時期

2022年11月～12月

■ 製作・使用したものの設置・建設場所や利用者など

【① モニュメント】

青森県営スケート場（盛運輸アリーナ）

【②ベンチ】

県有スポーツ施設及び希望のあった市町の施設（計11箇所）において、施設利用者の休憩等に利用
（設置場所）

青森県営スケート場（盛運輸アリーナ）、新青森県総合運動公園（マエダアリーナ）、青森県武道館、ひらかわドリームアリーナ、十和田市総合体育センター、平内町山村開発センター、いまべつ総合体育館、五戸町屋内トレーニングセンター 五戸ドーム、田子町農業者トレーニングセンター、南部町役場、板柳町公民館

【③PRパネル】

モニュメント、ベンチの設置箇所に展示

■ 完成まで・完成後のエピソード

- ・2022年5月に後利用方法を正式決定し、8月から製作を開始
- ・11月22日には、モニュメント、ベンチ、PRパネルの公開セレモニーを開催
- ・モニュメント、ベンチは長尺の木材を利用しており、迫力がある、木目に温かみがあるといった感想をいただいている。
- ・残りの木材は、2026年に本県で開催される国民スポーツ大会において有効活用することとしている。

問合せ先 林政課 林産振興グループ 電話：017-734-9517



モニュメント

(土台:スギ 柱:ヒバ)

「青森の豊かな大地とそこに育つ木々」を表現



ベンチ

- 梁等に使われたスギ材をほぼ同寸のままベンチへ加工
- 4. 2mと5. 92mの2種類を製作

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に使われた青森の木



東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、日本らしさの表現として、日本の木の文化や技術力を活かした競技会場等の施設が建設されました。

その一つ「選手村ビレッジプラザ」は、全国の 63 自治体から提供された木材で建てられ、大会期間中の選手の生活を支えました。

青森県からは、十和田市のスギ、むつ市のヒバ、田子町のアカマツのほか、五所川原農林高等学校の FSC 認証材が提供され、確かな強度や品質が求められる柱や土台、床などの建築材料として使用されました。

使用された県産材は、2021年の大会終了後に返却され、現在は、使用されたそのままの形を活かし、青森県の森林をイメージした「モニュメント」や「ベンチ」として、県内公共スポーツ施設等に設置されています。

本州最北端の厳しい自然の中で、先人達に植えられ、育てられてきた青森の木。大会の記憶を後世へ伝えるレガシーとして、これからも生き続けます。

青森県

PRパネル

(杣: アカマツ パネル中の木片サンプル: スギ、ヒバ、アカマツ3種)
モニュメント、ベンチの設置箇所、木材提供の経緯等を説明したパネルを設置